

地震ハザードマップ

いざというときに備えて、安全対策！



●わが家の防災メモ

わが家の防災先(親類宅・避難所など)		家族が離れ離れになったときの集合場所	
家族の名前		血液型	会社・学校の電話番号
家族の名前		血液型	携帯電話番号
家族の名前		血液型	携帯電話番号
家族の名前		血液型	携帯電話番号
家族の名前		血液型	携帯電話番号

●いざというときの連絡先 火事・救急 119 警察 110 災害用伝言サービス 171

連絡先	電話番号	連絡先	電話番号
串本町役場本庁舎	0735-62-0555	串本警察署	0735-62-0110
串本町役場古座分庁舎	0735-72-0081	串本有田病院	0735-66-1021
串本町消防本部	0735-62-0119	国保直営串本病院	0735-62-0635
古座消防署	0735-72-0119	国保古座川病院	0735-72-0280

地震が起きたら あわてず、まず身の安全を!! 緊急地震速報を見聞きしたら

- 頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難
- あわてて外に飛び出さない(落下物や車が危険)
- 揺れがおさまってから、あわてず火の始末
- あわてず落ち着いて行動しましょう

●運転中は、ハザードランプを点灯し、緩やかに減速

●門や扉、自動販売機やピルのそばに近づかない

●海岸にいる場合は、直ちに高台へ避難

●家屋の耐震化や家具の固定など、日頃から地震に備えましょう!!

●災害用伝言サービス

地震や洪水などの大災害発生時は、電話利用が爆発的に増加し、電話がつながりにくい状況が1日〜数日間続くことがあります。このような場合は、「災害用伝言ダイヤル」・「災害用伝言板サービス」が開設されます。

「171」をダイヤルし、ガイダンスにしたがって伝言の録音・再生してください

伝言の録音方法 **伝言の再生方法**

171をダイヤル 171をダイヤル

1を押す 2を押す

被災地の外、被災地以外の方も被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤル

録音 再生

災害用伝言ダイヤル

忘れてイマイ(171)? 災害伝言171などと覚えてください

このサービスは、大規模な災害が発生した場合、「声の伝言板」(安否情報)の役割をする電話サービスです。被災地内とその他の地域の人の間などで、伝言の登録・再生をすることができます。毎月1日、および防災週間・防災とボランティア週間においてお話し利用ができます。

安否状況の登録

伝言・安否状況等を入力します

安否状況の確認

安否状況を確認したい相手の携帯電話番号を入力して検索します。

災害用伝言板サービス

携帯電話を使って被災者は安否状況の伝言を登録し、外部の人がその伝言を確認できます。携帯電話のトップメニューから「災害用伝言板」を開き、伝言の登録・確認を行います。

いざというときの応急手当

■出血がひどいとき(止血法)

- ① 出血の箇所を心から強くもみ、傷口に清潔なガーゼやハンカチを当てて、強圧をかける。
- ② 骨折などで任道でないとは、傷口より心臓に近い側をタオルなどで強く結び、縛る結び目に差し込んで血が止まるまで回転して締め上げる(30分以上締め付けずに、巻いた時間を決めて)。巻いた時間を決めて。

■骨折

- ① 患部を動かさないようにして、傷や出血の手当てをする。
- ② 患部に湯え水をして固定し、早めに医療機関へ。湯え水は、板、かき、ダンボール、雑誌などで代用できる。

■やけど

- ① 患部を流水で冷やす。患部に直接、強い圧がかからないように!
- ② 衣服の上からやけどしたときは、無理に脱がさず、そのまま冷やす。
- ③ 冷やした後は、清潔なガーゼなどで乾かす、患部を医療機関へ。

■自動体外式除動器(AED)による早期除動

使用方法: 音声メッセージに従って対象者に電極/パッドを貼り付けると、機器が心電図波形を自動的に解析し、電氣的除動が必要かどうかを判断・表示し、必要な場合に限り使用者がボタンを押すことで電流を送る。ただし、1歳未満の乳児には、AEDを用いてはならない。

地震はこうして起こる

わが国は、大きな地震がひんぱんに発生する、世界でも有数の地震大国です。串本町もいつ、大きな地震災害に見舞われるかわかりません。地震から大切な命を守るため、地震に対する危険性を正しく理解し、一人一人が自分でできる地震対策を考えましょう。

地球の表面は、プレートと呼ばれる厚さ数10kmの岩盤で覆われています。プレートは1年に数cmくらいの速さで動いており、この動きが地震を発生させるエネルギーとなります。地震の起こり方は大きく2つに分けられます。ひとつは、プレートの境界で発生する地震、もうひとつはプレートの内部で発生する地震です。

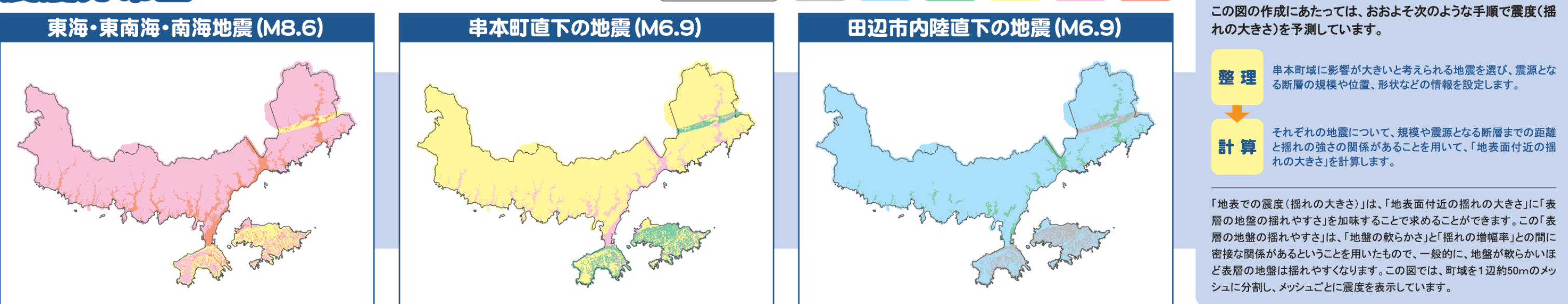
プレートの境界で発生する地震

日本列島はユーラシアプレートと北アメリカプレートに乗っており、太平洋の沖の南海トラフでこれらのプレートの下に、太平洋プレートとフィリピン海プレートという別のプレートが沈み込んでいます。このプレートの強いひき込みによって岩盤がひずみ、それが限界に達すると、ひずみを開放しようとする強い力が働いて岩盤が破壊され、地震が起きます。

プレートの内部で発生する地震

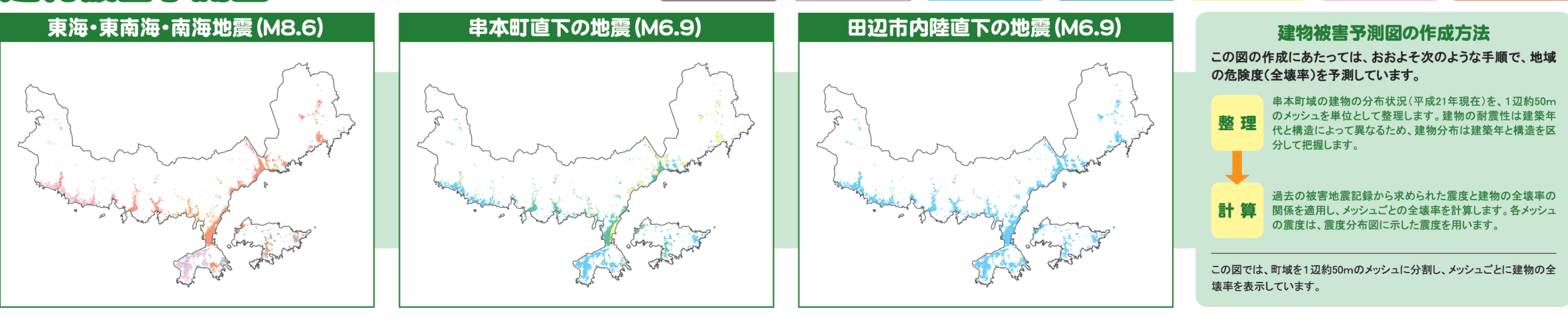
プレートが動くことにより、プレートの内部にもひずみが蓄積しています。そのひずみでプレート自身がひびわれたりずれたりしたときにも地震が発生します。プレートの内部で発生する地震には、プレートの深いところで発生するものと浅い活断層で発生するものがあり、平成7年の阪神・淡路大震災は活断層で発生した地震でした。

震度分布図



※このマップに示す予測震度は、震源の位置や地震の規模を仮定したものであるため、地震の発生仕方によってはこれより大きくなり小さくなる場合があります。

建物被害予測図



●震度と揺れの状況

震度 4

- ほとんどの人が驚く。
- 電灯などのつり下げ物が大きく揺れる。
- 座りの悪い置物が、倒れることがある。

震度 5弱

- 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまらなると感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。

震度 5強

- 物につかまらなると歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本が落ちることが多い。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が倒れることがある。

震度 6弱

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破壊、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

震度 6強

- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な土すべりや山体の前縁が発生することがある。

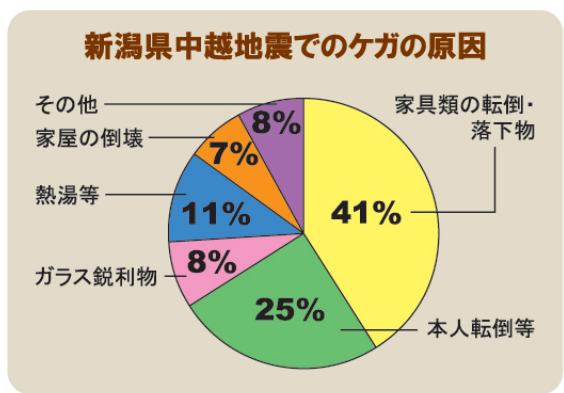
震度 7

- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多い。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多い。

地震への備え

●家具などの対策

地震で建物が倒壊しなくても、大きな家具の転倒、家電製品の落下、ガラスの飛散などにより大きなケガをしり逃げ道をふさがれたりします。新潟県中越地震(平成16年10月)でも、負傷者の約5割は家具類の転倒・落下、ガラスの飛散によるものでした。家具の固定や配置方法の工夫を行い、家の中の安全性を高めておきましょう。



資料「平成16年(2004年)新潟県中越地震における人的被害に関する現地調査結果」(東京消防庁、2004年)

転倒防止のしず金具

家具が倒れない工夫など、家の中には、まだまだおぼろげにできることがあります。

ビンなどが倒れない工夫も大切!

食器の下に、やわらかい敷物を敷くと滑らないので安全。

家具が倒れない工夫など、家の中には、まだまだおぼろげにできることがあります。

地震の時に家具などが寝床部分に倒れたり、避難経路をふさぐ位置に配置されていませんか?

●家の内外チェック

- ベッドや寝る場所で倒れかかる位置に、家具や本棚はありますか
- 照明器具はしっかりと取り付けられていますか
- 高いところに花瓶など、割れると危ないものはありますか
- ひび割れ、壊れているところはありませんか
- 腐す部分はありませんか
- 傾いていませんか
- グラついていませんか
- 壁紙はありますか
- ガスボンベは固定していますか
- テレビや水槽は低いところに置いていますか
- ストーブをふすま・障子・カーテンの近くで使用していませんか
- ガスボンベの周りの物が置いてありますか

串本町の防災対策事業について

●串本町木造住宅耐震診断事業

地震から身を守るためには、まずは住宅の耐震性の向上が必要であり、また、津波から避難をするにも倒壊しない住宅が大切です。まず、耐震診断を受けて、住宅の耐震性を確認しましょう。

【ブロック塀撤去】

■対象 道路に面するブロック塀(高さ60m以上かつ3段以上)を撤去するときに、撤去に要する費用または撤去するブロック塀の長さ1.900円/mをかけた額のうち少ない額の2分の1(最高10万円)【生垣づくり】

■対象 道路に面した土地に新たに生垣(高さ50cm、延長2m以上)を構築するときに、構築に要する費用または撤去した後に施工するときは、フェンス(金属材料)でも可しです。

■補助額 構築に要する費用の2分の1(最高3万円)

地震が起きたとき、とるべき行動

命を守る

ダウンしたら**地震発生!**

- 落ち着いて、自分の身を守る
- ドアや窓を開けて、逃げ道を確保する

家族を守る

1~4分 揺れが収まってから行動

- 家族の安全を確認
- 火の元を確認・初期消火
- 足をケガしないように靴をはく
- 必需品を手元に用意する
- 余震に注意

地域を守る

5~10分

- 隣近所の安全を確認
- ラジオなどで情報を確認
- 電気のブレーカーを切る・ガスの元栓を閉める
- 家屋倒壊などのおそれがあれば避難する

助け合いの心で...

10分~数時間後 避難生活

- 協力して消火・救出活動
- 生活必需品は備蓄でまかなう
- 災害情報、被害情報の収集
- 壊れた家には入らない
- 引き続き余震に注意
- 避難所では集団生活のルールを守る

●非常時に備えて

いざというときは、ただちに避難しなければなりません。そのようなときに備えて、非常持ち出し品などを常備しておきましょう。両手が自由に使えるようにリュックサックなどにまとめましょう。

非常持ち出し品

避難するときに持ち出すもの。持ち出し品が多すぎると避難が大変です。重さの目安は男性で15キロ、女性で10キロ程度。

非常備蓄品

災害復旧までの数日間(最低3日分)自ら生活できるように準備しておくものです。

食料品

- 水/1人1日3Lを目安
- レトルト食品
- 乾パンやクラッカー、缶詰
- 鍋や水筒
- ナイフ、缶切り
- 粉末ミルク・ほろびん ※赤ちゃんがいる場合

衣類関係

- 衣類・下着
- 雨具
- 寝袋
- タオル・毛布

日用品

- 卓上コンロ
- 携帯ラジオ
- 懐中電灯
- マッチやライター
- ヘルメット
- ロープ
- 予備の電池
- 包装用ラップ
- 生理用品
- 軍手
- 使い捨てカイロ
- ティッシュ・ウェットティッシュ
- 筆記用具
- 大きなゴミ袋
- 防護マスク

貴重品

- 現金
- 印鑑
- 預金通帳や有価証券などの権利証書
- 連絡カードや身分を証明するもの

安全対策

- 救急医薬品
- 常備薬の予備
- 防災ずきんや帽子
- 底の厚い靴

地震発生直後に津波が来襲

東海・東南海・南海地震が同時発生した場合、地震発生から早いところでは約3~5分後に0.2m程度の海面の変動が始まり、地震発生6~14分には津波第一波ピークが到達し、沿岸部での最大津波水位(満潮時の海面水位)は、4~9mに達すると予測されています。沿岸部の広範囲で浸水被害が予想されますので、地震を感じたら直ちに避難する必要があります。特に海岸に近いところでは、津波警報や避難勧告を待ってはいけません。

大揺れしたら逃げる! 強い地震(震度4程度以上)を感じたとき、または弱い地震でも長い時間ゆっくりした揺れを感じたときは、安全な場所に避難してください。

津波の心得5か条

- 地震が起きたら、まず避難**
強い地震(震度4程度以上)を感じたとき、または弱い地震でも長い時間ゆっくりとした揺れを感じたときは、直ちに海岸から離れ、高台等安全なところに避難すること。
- 津波は繰り返して来襲します**
津波は繰り返して来襲する(発生から6時間以上)ので、津波警報・注意報が解除されるまでは避難したところにとどまること。
- 情報を待っている、逃げ遅れます**
テレビ・ラジオ等の情報を待っていると避難に間に合わないことがあるので、まず安全なところに避難してから情報を確認するように心がけること。
- 家族で話し合っておきましょう**
日頃から、津波が発生した場合の避難場所や避難経路、非常時の連絡方法などについて、家族で話し合い、前もって決めておくこと。
- 津波は引き潮から始まるとは限りません**
津波の前に引き潮があるとは限らないので、津波が来るかどうかの確認のために海岸に出ることはやめて、直ちに避難すること。

●地域ぐるみの助け合い

「向こう三軒両隣」ということばのように、日ごろから、近所同士の交流を持ち、いざというときに互いに助け合える人間関係を作っておくことが大切です。高年齢や体の不自由な方など、個人では避難が困難な方はいらっしゃいます。これらの人は、身内の手助けとともに、地域の人達が協力して支援することが大切です。